

令和2年度

事業報告書

社会福祉法人

住田町社会福祉協議会

令和2年度活動状況（総論）	1
1. 法人運営の基盤整備	3
2. 地域福祉活動の推進	4
2-1 地域福祉事業の推進	4
2-2 生活福祉支援活動の推進	8
2-3 共同募金配分事業	9
2-4 無料法律相談所の開設（協力事業）	9
2-5 福祉有償運送事業	10
2-6 老人福祉活動の推進	10
2-7 民生児童委員の推進（地域見守り体制の整）	10～12
2-8 シルバー人材センターの運営	12
2-9 ボランティア活動連絡会の支援	12
2-10 日本赤十字社住田分区事務局	12
2-11 福祉だよりの発行	12
3. 在宅福祉活動の推進	13
3-1 居宅介護支援事業（ケアマネ事業）	14
3-2 訪問介護事業（ヘルパー事業）	15
3-3 訪問入浴事業	16
3-4 グループホームかつこう	17
3-5 とだて通所介護事業所（ディサービス事）	18
3-6 アンルス通所介護事業所（ディサービス事業）	19
3-7 障がい者福祉サービス支援	20
3-8 高齢者福祉センター（アンルス居住）	20
令和2年度 庶務報告	21～28

総論

2020年度の活動状況

2020年オリンピックイヤーは、世界中を巻き込んだ新型コロナウイルスの猛威にさらされ、まさかの延期という波乱の幕開けとなりました。法人の新年度も自粛気味にスタートし、計画されていた行事に関しては中止や延期があり、ウイルス感染の広がり注視しながらの1年でした。政府の唱える「新しい生活様式」に、望まざるとも従わざるを得ない状況下にありましたが、それでも、地域福祉、高齢者介護の衰退につながらないように、制限の多い中でも、連携し、調整し、試行錯誤しながら活動した1年であったと振り返ることができます。

以下に、2020年度の住田町社会福祉協議会の活動概要を示します。

法人運営の基盤整備

新体制2年目の今年度も、三役会を適宜開催し、事業内容の実施状況を確認してまいりました。今年度は、社会労務士との業務契約を結ぶことで、諸規定の見直しのほか、次年度の働き方改革の本格実施に向けた体制の見直しを行ってまいりました。

また、長年の命題であった退職金制度や、正規職員と非正規職員の給与締め日のずれについて整理できたことは基盤整備のための大きな一歩だったと評価しております。

コロナ禍により、大勢が集まれる事業は実施できなかつた中、今年度から福祉大会を毎年開催として、永年勤続表彰による社会福祉法人職員への表彰により、長年の功績をたたえることができたことも、広い意味での社協を支える基盤整備につながることでとらえております。

地域福祉活動の推進

第2期地域福祉活動計画初年度は、コロナ禍のため計画を縮小しながらも、状況を見極めつつ、出来る限りの事業を実施できたと感じております。年度初めには、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策による「特別定額給付金」の給付申請について、町からの依頼を受け、一人暮らし高齢者等への手続き支援をいたしました。

7月には成年後見支援センターを開設し、相談窓口を拡張しました。市民後見人のフォローアップ講座をリモートで実施するなど、コロナ禍における対応もしつつ、計画の実施に努めました。

地域の支えあいや、認知症予防の柱である「よりあいカフェ」事業は、コロナ禍のあおりを受け、近隣や町内に感染者が出るたびに中止を余儀なくされたり、楽しみの飲食ができなくなったりと困難の連続でした。しかし、そのような中でも安否確認を行い、繋がりを絶やさない活動をするなど、地域の方々の求めに応じて継続できたことは、運営者やボランティアの皆様の努力と使命感に支えられてのことと感謝に堪えません。

生活福祉資金の貸付事業、生活困窮者自立支援事業においては、年度後半からコロナ禍による相談も増え、困難ケースも出てきております。困難ケースにおいては、多方面との連携と検討、地域福祉担当者間の情報共有が必須と感じております。貸付を行って終了ではな

く、課題を抱えながら生活している相談者への伴走支援が次年度への課題ととらえています。

在宅福祉活動（介護保険事業等）の推進

介護保険事業は、相変わらず厳しい状況が続いています。利用者数の低下に加え、今年度は新型コロナウイルス感染症関連により、デイサービスを2日休止する事態にも陥りました。介護支援専門員が町内感染者の濃厚接触者となり、緊急対応に迫られたこともまだ記憶に新しいところです。コロナ禍における社会情勢が目まぐるしく変わる中、管理者、衛生委員を中心に、その都度対策、対応を検討しながら事業継続に力を注ぎました。

また、次年度に向けて介護保険事業の見直しも行いました。利用者数の減少が大きい「デイサービスセンターとだて」と「アンルス通所介護事業」について、機能分化することで利用者の要望に沿ったサービス提供を行うとともに、介護予防に力を入れて取り組むことを次年度の計画に位置付けました。

障がい対応の訪問介護事業は大きな変化なく事業実施できております。しかし、利用者の中には精神障害の利用者が多くなってきており、利用者の状態を把握しての対応については、研修などを通じて職員の理解を深めていく必要性を感じているところです。

高齢者生活福祉センター「アンルス」においては、今年度緊急対応での利用者が2名含まれております。また、本来であれば要介護者の利用を想定していなかったにもかかわらず、緊急利用を除く入居者全員が要支援・要介護者であることを考えると、今後の宿直体制等を含め、支援体制の検討が必要となってくるのではないかと懸念しているところです。

1. 法人運営の基盤整備

(1)会の運営

項目	回数
理事会	4回
評議員会	3回
定例監査	4回
三役会	11回
企画委員会	1回
管理者会議	12回

(2)社協会員加入の促進

・一般会員(町内各世帯) 1口1,000円		
R1	1,738世帯	1,773,000円
R2	1,713世帯	1,713,000円

・賛助会員 1口 3,000円		
R1	11件	42,000円
R2	11件	42,000円

(3)役員研修

- 「広域社協災害ボランティアセンター設置・運営に係る研修」 3名
- 「岩手県社会福祉協議会主催:災害ボランティアセンター設置・運営に係る研修訓練」8名
令和2年11月25日(水) 気仙地区社会福祉協議会連絡会職員研修もかねて実施・参加
- 事業所単位では必要研修実施
- 管理者研修、主任研修など職務研修の実施

(4)職員所持資格状況(重複あり)

資格	R2.4.1現在	R2増減	合計
介護福祉士	42	0(1名退職、1名取得)	42
(主任)介護支援専門員	12	0	12
社会福祉士	6	0	6
精神保健福祉士	1	0	1
看護師・准看護師	10	0	10
保健師	1	0	1
理学療法士・作業療法士	3	1	4
社会福祉主事	23	2	25
栄養士・調理師	6	0	6
簿記	2	0	2

2. 地域福祉活動の推進

2-1. 地域福祉事業の推進【地域ささえあい事業】

(1) 総合相談事業(CSW設置) ★最重点事業

困った時すぐ相談できる体制と相談窓口の積極的な周知をするとともに、各地区にCSWを配置するなど、アウトリーチによる相談機能を充実させ支援につなげました。

また、行政より生活支援コーディネーターの委託を受けており、CSW活動の中で地域内のニーズと地域資源の状況を把握し、必要な生活支援サービスを地域住民と共に構築していきます。

(相談件数: 令和元年36件、平成30年49件)

〈令和2年度月別相談数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	25	43	42	34	49	45	46	29	32	27	29	25

(2) 日常生活自立支援事業

基幹社協である大船渡市社協に住田町担当専門員1名配置、住田町社協では担当職員2名、生活支援員3名を配置しサービスを提供しました。家庭環境が複雑かつ生活環境の見直しが必要なケースや生活費が不足するケースもあり、生活保護のケースワーカー、保健師等と連携し支援しました。

今年度も、金銭管理だけでなく安定して生活が送れるよう、関係機関と協力しながら支援します。

〈令和2年度月別利用者数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者(人)	8	8	10	10	10	10	10	10	9	10	9	9
回数(回)	9	9	13	10	10	10	11	11	9	11	9	9

〈年度別利用状況〉

年度	利用者	利用回数	対象者
H29	12人	169回	高齢者3人・知的障がい者4人・精神障がい者5人
H30	10人	148回	高齢者1人・知的障がい者5人・精神障がい者4人
H31	9人	124回	高齢者1人・知的障がい者5人・精神障がい者3人
R2	12人	121回	高齢者3人・知的障がい者6人・精神障がい者3人

(3) 在宅介護者支援事業

〈在宅介護者リフレッシュ事業〉(包括と共催)

10月2日、介護の問題を抱え込むことがないよう、介護者同士の交流の機会をつくり、介護家族の心身のリフレッシュを図るために開催しています。例年は日帰り温泉ツアーを実施していましたが、令和2年度はコロナの影響で断念し、安全に出来る時期と内容を考慮し町民ホールで「笑いヨガ」を体験していただきました。10人の介護者が参加し、「コロナ禍でも楽しむことができた。」との感想がありました。

〈認知症介護家族交流会〉(包括と共催)

12月11日、コロナの影響で延期し冬の開催となりました。下有住地区公民館を会場に8人の家族が参加しました。辛い介護を笑いに変えて乗り切ったという認知症介護の体験談や、参加者一人ひとりの介護の状況を聞いた後、クリスマスリースを手作りして、介護者同士の交流を深めました。

(4) 障がい者支援事業

〈あゆっこの会への協力〉(精神・身体・知的障がい者社会復帰事業)

年間12回開催、実人員8人、延べ参加者数50人、1回あたり4.2人参加

例年月1回は午後まで開催しましたが、コロナ予防のため全て午前のみとし、飲食は控えました。

〈障がい者本人・家族のための福祉のおはなし〉(保健福祉課と共催)

コロナ感染拡大予防のため未実施

〈身体障害者協会の活動への支援〉

役員会、ボッチャ交流会の協力、身障協だより発行のサポート

(5) ふれあいサロン事業

年間5回開催、延参加者数163人、助成金交付額 80,200円

(6) 福祉のまちづくり事業

①防災福祉マップ作成事業 ★最重点事業

五葉3地区(6/26)、恵山地区(10/21)、大股地区(1/31) 22自治公民館中12か所で作成済み。
地域の見守り力が低下しないよう公民館や民生委員と協力し1地区でも多く実施します。

②ボランティア養成事業

だれもがボランティア活動について理解し、積極的に地域福祉活動に参加できる仕組みをつくることを目的として、中高生、ボランティア活動連絡会、一般を対象に事業を実施しました。新型コロナウイルスの影響で、歳末たすけあい芸能祭や産業まつりのイベント募金などが中止となりましたが、感染対策をし安全を確保できる範囲で活動しました。

<ボランティア養成講座> 8/3 一般、各ボランティア団体、スタッフ、計15人参加

・「あなたの力が必要です！災害ボランティアのいろは」 講師:社協職員

<中高生への福祉教育・福祉ボランティア>

・地域創造学・・・世田米小学校4学年18名 ～すごいぞ住田！お年よりと仲良し！～
住田高校1年 2名 ～高齢者福祉編～ (8/8)

・住田高校魅力化推進 高校生ワークショップ(10/21)

・住高生と高齢者との交流事業・・・新型コロナウイルス感染予防のため中止

③すみたおたすけ隊の活動

中高生の夏・冬休み中にボランティアの日の取り組みと併せた活動を実施しました。

年2回 計11世帯訪問 延参加者数72人

④緊急連絡カード設置事業・・・291個設置

⑤おげんき電話利用状況・・・月平均利用者数10.1人、新規5人、利用停止2人、登録者数14人

⑥よりあいカフェ事業

中心型カフェ3カ所、地域型カフェは新たに1カ所開設し17カ所で開催しました。コロナの影響で、中止した期間がありましたが、その間も中心型では3名の認知症地域支援推進員が毎週訪問し、安否や生活状況の確認を行いました。また、地域型では各カフェの運営者が電話や玄関先訪問による安否確認を行い、利用者とのつながりを切らさず、孤立防止、機能低下の早期発見に努めました。

拡大防止のため活動が出来ない時期があり、延べ利用者数は昨年より減っています。

【中心型カフェ実績】

カフェしょうわばし 毎週火曜日 10時～11時30分開設(世田米駅 中里家旧店舗)

カフェあんるす 毎週水曜日 10時～11時30分開設(上有住集会センター内)

カフェなるせ 毎週木曜日 10時～11時30分開設(下有住地区公民館)

	開催回数	延利用者数	1回あたり人数	相談者数	スタッフ数	ボランティア数
カフェしょうわばし	31回	633	20.4	72	124	95
カフェあんるす	28回	271	9.7	35	89	59
カフェなるせ	30回	294	9.8	49	124	30
計	89回	1,198	13.5	156	337	184

イベント内容

開催月	内容	開催月	内容
4月	コロナのため中止	10月	絵手紙教室
5月	コロナのため中止	11月	ミニゲーム大会
6月	コロナのため中止	12月	クリスマス会・正月生け花
7月	七夕会	1月	みずき団子・書初め
8月	夏の縁日	2月	輪投げで節分/バレンタイン
9月	コロナのため中止	3月	ひなまつりお茶会

自粛期間中、認知症地域支援推進員の訪問実績

4月:延78件、5月:延122件、8月:延66件 計:延266件

【地域型カフェ実績】

No.	カフェ名称	設置場所	住所	運営者	開設日	年間開催回数	延参加者数
1	菜の花カフェ	民家	恵山	4人	第2.4金	8	90
2	ひまわりカフェ	自治公民館	両向	6人	第2.4月	15	167
3	どんぐりカフェ	民家	大平	4人	第3火	12	127
4	野の花カフェ	集会所	野形	3人	第1.3水	7	70
5	みねちゃんカフェ	民家	小股	3人	第4木	11	84
6	ネコちゃんカフェ	集会所	川口	6人	6.7.8月	12	80
7	ねむの木カフェ	種鮎売り場	川口		第2月		
8	あけぼのカフェ	社務所	曙	5人	第1.3土	20	273
9	カフェしゃくやく	民家	高瀬	3人	第3木	17	99
10	カフェとなり	(株)となり	坂本	12人	第2.4火	20	135
11	すみれカフェ	民家	高瀬	3人	第2水	14	52
12	かたくりカフェ	自治公民館	火ノ土	4人	第3月	12	80
13	なでしこカフェ	集会所	小田	5人	第1木	12	82
14	コスモスカフェ	集会所	小府金	3人	第4月	11	110
15	たかせカフェ	鉄工所の休憩所	高瀬	4人	第2木	17	153
16	竹ノ原女子会カフェ	民家	竹ノ原	4人	第3月	5	46
17	カフェおおまた	自治公民館	大股	3人	第3水	9	55
計	17カ所			71人		202	1,703

⑦生活困窮者自立支援事業

住田町社協に相談窓口を設置し、ふくしだよりで利用を啓発しました。

	新規相談	自立支援計画策定	支援検討会議	支援調整会議	ケース会議
H31	6	3	1	—	—
R2	140	8	0	7	23

⑧住田町市民(町民)後見人養成事業

<町民後見人フォローアップ講座>

令和2年11月14日、12月12日に町民後見人養成講座の修了者11人が受講。一般からも6人が受講しました。

<成年後見制度普及啓発>

令和3年3月14日より住田テレビにて「成年後見制度紹介番組」を放送。11時30分からと21時30分からの1日2回。役場保健課と社協職員による寸劇を交えた番組を作り放送しています。

令和2年7月1日、町委託にて「成年後見相談窓口」を設置。令和3年3月31日までに15件の相談がありました。成年後見申請に至るケースはありませんでした。

⑨ささえあい住民講座開催状況

助けてと言えない人が多いことから、地域での見守りや声掛け、助け合いの仕組みについて説明。令和3年始動予定の「ちょこっとボランティア」(有償ボランティア)への協力もお願いしました。

実施日			一般	スタッフ	場 所
10月15日	上有住	上有住高齢者教室	33	5	両向公民館
12月15日	世田米	ボランティア活動連絡会	10	3	保健福祉センター
12月18日	下有住	下有住高齢者教室	17	7	下有住地区公民館
3月18日	世田米	生活支援ケア会議	10	2	保健福祉センター
		合 計	70	17	

⑩ひきこもり相談支援事業

<居場所づくり「心café」>

カフェしようわばしで月1回、心caféを開所し、ひきこもり者の集う場所としてCSWが待機しましたが、残念ながら本人の参加には至りませんでした。

広報等による相談窓口の周知、アウトリーチによる声掛けや情報提供を地道に行い、今後も「心café」を開所し、本人の気持ちを聞きながら少しずつでも前進できるよう支援していきます。

<ひきこもり家族の集い>

今年度初めて家族の集いを開催し、2組の参加がありました。集いでは、家族への情報提供や家族の思いの傾聴に努めました。つらい思いを抱える家族が多いと思われることから、今年度も年に3～4回の家族の集いを開催する予定です。

⑪大股地区買い物ツアー事業(スマイルおおまた大股地区振興協議会に協力)

大股地区の高齢者世帯や障がい者等で、自家用車などによる外出が不自由な方を対象とし、デイサービス送迎時間外の車を利用して買い物を支援しました。買い物先は世田米商店街を中心とし、地域の活性化も図りながら高齢者の閉じこもり予防や、地域交流に繋げました。コロナの影響で全9回(前年度23回)1回あたり5.7人が利用しました。今年度は大股独自のツアー実施を予定しています。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
実施日	4/8	6/9	6/23	7/6	7/22	8/11	9/23	10/21	3/18	
利用者数	7	3	6	8	6	6	6	7	3	52

⑫振り込め詐欺見張り隊設置事業

既存の家庭電話に接続し、「会話を録音します」とのアナウンスが流れるものを貸出しました。

設置3台 4台貸出可能

⑬福祉用具レンタル事業

車いすのレンタル16件。通常1週間程度の利用。受診や外出で一時的に車いすが必要な方に貸出しました。足の骨折のため小学生に貸出すケースもありました。

スロープの貸し出しは0件です。

2-2. 生活福祉支援活動

(1) たすけあい金庫資金貸付事業

たすけあい金庫資金は、住田町社協が事業主体となり、低所得世帯に対して応急的な資金の貸付を行い、経済的自立と生活意欲の助長を図ることを目的としています。

令和2年度の新規貸付件数は6件、総額 265,000円 となっており、生活困窮者自立支援事業と連携した事業運営に努めました。

総貸付残元金から償還額を差し引いた当期末貸付金残額は1,408,000円(14件)となっています。

また、返済出来る見通しが無く貸付が難しい世帯には、フードバンクを募り食料を届けるなど支援しました。

令和2年度新規貸付	6件	265,000円
令和2年度償還完了	6件	375,000円

	件数	金額	年度	件数	貸付決定額
当期末貸付残元金(①+②-③)	19	1,408,000	R2	6	265,000
期首貸付残元金①	14	1,424,000	H31	5	156,000
新規貸付額 ②	6	265,000	H30	3	80,000
当期償還額 ③	14	281,000	H29	9	348,473

(2) 生活福祉資金貸付事業(県社協より事業委託)

生活福祉資金とは、低所得者や障がい者あるいは高齢者世帯に対して、資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、経済的自立や生活意欲の助長を促し社会参加の促進を図ることを目的とした、都道府県社会福祉協議会が実施主体の事業です。

何らかの理由で償還が滞っている借受人等に対して相談指導を行うとともに、借受世帯の生活状況の把握に努めました。

令和2年度の新規貸付10件中、コロナ特例貸付は3件です。

令和2年度新規貸付	10件	(教育1件、緊急小口7件、総合2件)
令和2年度償還完了	2件	
令和2年度相談件数	延30件	(13名)

※金額は元金 単位:円

資金種	貸付件数	貸付金合計	償還残額	年度	件数	貸付決定額
総合支援資金	9	6,086,000	2,457,050	R2	10	2,718,000
福祉・教育・小口	107	118,427,000	60,614,560	H31	3	3,570,000
離職者支援資金	1	2,400,000	2,048,360	H30	2	5,780,000
計	117	126,913,000	65,119,970	H29	1	100,000

- ◇償還状況
- ・貸付期間中件数(償還がまだ開始されていないもの)・・・8件
 - ・償還中件数(償還が開始しているもの)・・・109件 (うち6回以上延滞者24件)

2-3. 共同募金事業

① 共募一般配分事業

岩手県共同募金会の地域福祉活動事業配分を活用し、町内で福祉活動を行う福祉団体、学校など19団体(事業)に対して配分し、有効に活用していただきました。

【助成金配分一覧】

団体名(事業名)	助成金額	備考
1. 住田町民生児童委員協議会	120,000	30,000円×4地区
2. 住田町身体障がい者協会	30,000	
3. 世田米小学校ことばを育む親の会	30,000	
4. 音声訳ボランティアりぼん	30,000	
5. 住田町子ども会育成会連絡協議会	30,000	
6. 特定非営利活動法人カトレア会	30,000	
7. KIT工房	40,000	
8. 住田町手をつなぐ育成会	30,000	
9. 老人クラブ連合会	60,000	
10. 世田米小学校	50,000	
11. 有住小学校	50,000	
12. 有住中学校	50,000	
13. 住田高等学校	50,000	
14. ボランティア講座	45,000	
15. ボランティア活動連絡会	165,000	
16. ふくしだより	239,910	
17. ふれあいサロン	80,000	
18. 介護者リフレッシュ事業	50,000	
19. よりあいカフェ	120,000	
合計	1,299,910	

② 歳末たすけあい配分事業

「みんなで支えあう地域づくり」の精神のもと、在宅者配分においては民生委員の協力を得て対象世帯を調査し、19世帯に計223,000円の歳末たすけあい金を配分しました。今年度より、施設配分は廃止し、在宅配分は自己申告制を追加しました。

種別	金額	内訳
在宅者配分	223,000円	一人暮らし12世帯、障がい3世帯、ひとり親世帯2世帯、他2世帯
地域福祉活動等	623,650円	よりあいカフェ 523,650円
		ふくしだより 100,000円
事務費	40,000円	送料、のし袋他
計	886,650円	

③ 共同募金実績について

赤い羽根共同募金…1,737,036円、歳末たすけあい募金…886,650円

④ 災害義援金について

令和2年7月豪雨災害義援金…18,581円

2-4. 無料法律相談所の開設(協力事業)

日本司法支援センターからの指定を受け、月1回無料法律相談を開設し、年間相談件数は10件。相続や債務の相談が多くありました。令和3年3月31日にて震災法律援助が終了しましたが、引き続き月1回法律相談の利用が可能となっています。ただし、無料で利用できるのは低所得世帯のみ。

2-5. 福祉有償運送事業「おたっしや移送サービス」

新規利用登録は8件。1度きりの利用が5件。移送に携わる運転手はシルバー4人、職員2人、計6人と少ないことや、突然の申し込み、利用時間の重複等もあり対応が難しいことがありました。

①移送件数

	寝台車		車いす		計
	件数	割合	件数	割合	
R2	10件	8.3%	110件	91.7%	120件
H31	19件	11.4%	147件	88.6%	166件
H30	47件	24.1%	148件	75.9%	195件

②移送先

	病院		その他		計
	件数	割合	件数	割合	
R2	109件	90.8%	11件	9.2%	120件
H31	165件	99.3%	1件	0.7%	166件
H30	168件	86.2%	27件	13.8%	195件

2-6. 老人福祉活動の推進

- (1)米寿祝い品の贈呈・・・アツモリソウのお盆と菓子入れ
- (2)社協会長杯ゲートボール大会、社協会長杯グラウンドゴルフ大会の開催
- (3)住田町老人クラブ連合会活動の支援(事務局を受託)

老人クラブ活動を通じて仲間づくりをし、孤立することなく、地域で支え合う基盤をつくっていくために「生きがいと健康づくり活動の推進」「ふれあい活動の推進」「社会奉仕活動の促進」を基本方針として活動を支援しました。R2年度には21単位クラブ、会員数1,344人で、会員は徐々に減少しています。

主な事業名	場 所	日 程	参加者数
町老連ゲートボール大会	河川公園	9月23日	12人
町老連グラウンドゴルフ大会	町営グラウンド	9月17日	87人
第34回社協会長杯ゲートボール大会	河川公園	10月19日	15人
第15回社協会長杯グラウンドゴルフ大会	町営グラウンド	10月29日	92人

※ コロナの感染拡大予防のため、シニアスポーツ大会、大名湯治などが中止となりました。

2-7. 民生児童委員活動の推進(地域見守り体制の整備)

前年度に引き続き「地域福祉活動の推進」「要援護者の早期発見と調査活動の展開」等を重点事業とし、コロナ禍においても地道な訪問活動により緊急連絡カードの設置、福祉票や要援護者台帳整備等を行いました。ふれあいサロンはコロナの影響で、実施を見合わせた地区が多い状況でした。

今後も民生児童委員協議会活動の支援をとおして地域の見守り体制や居場所づくりを推進します。

①相談・支援件数(民生児童委員活動実績報告書より)

内容別

相談種別	件 数
1.在宅福祉	58
2.介護保険	18
3.健康・保健医療	14
4.子育て・母子保健	15
5.子供の地域生活	14
6.子供の教育・学校生活	22
7.生活費	24
8.年金・保険	5
9.仕事	7
10.家族関係	38
11.住居	10
12.生活環境	19
13.日常的な支援	275
14.その他	261
計	780

分野別

相談種別	件 数
1.高齢者に関する事	562
2.障害者に関する事	16
3.子供に関する事	61
4.その他	141
計	780

②いきいきふれあいサロン事業実施状況

年 度	開催地区	開催回数	延参加者数
R2	4	5	163
H31	28	37	910
H30	28	42	1,036
H29	25	40	1,042
H28	24	49	1,226

③福祉票整備状況

独居世帯	212
高齢者世帯	90
要介護世帯	74
計	376

④民生児童委員定例会・研修会の開催

開催月	内 容	場 所
4月	4月期定例会(総会)【中止】	
6月 (6/18)	6月期定例会 研修:「介護保険制度と住田町の現状について」保健福祉課 「生活保護制度と住田町の現状について」保健福祉課 「生活福祉資金について」社会福祉協議会 事務連絡:ふれあいサロンについて 地区民協活性化事業について 児童福祉部会について	農林会館 多目的ホール
8月 (8/24)	8月期定例会 研修:「障がい者支援制度とサービスについて」保健福祉課 「社会福祉協議会の事業について」社会福祉協議会 協議事項:今後の児童福祉部会について 民生委員等を対象にした相談事業研修会	農林会館 多目的ホール
10月	10月期定例会 研修:「学校連携と民生児童委員の役割について」 スクールソーシャルワーカー 佐々木氏 事務連絡:災害時要援護者登録台帳の整備について 後期事業予定について 歳末たすけあい義援金配分について 福祉票整備について 緊急連絡カードの加除について	農林会館 多目的ホール
12月	12月期定例会 研修:「コロナ禍における困窮者支援とこれからの地域づくり」 社会福祉協議会 事務連絡:歳末たすけあい義援金配分について 福祉票について	農林会館 多目的ホール
3月	3月期定例会 研修:「住田町の現状と課題について」神田町長 事務連絡:4月期定例会(総会)について	農林会館 多目的ホール

⑤地区民協開催状況

世田米地区民協	4回
川口・大股地区民協	5回
下有住地区民協	3回
上有住地区民協	6回

- ⑥民生委員・児童委員の日の取り組み(令和2年5月17日)
「民生委員・児童委員PRチラシ」による担当地区の訪問活動

⑦地区民協活性化事業の取り組み(共募助成事業)

地区民協名	内 容	人数	助成経費
世田米	住民健康講座「新型コロナウイルス感染予防と健康について」	27人	30,000円
川口・大股	「駐在さんのお話を聞きましょう」	43人	30,000円
下有住	「法話会 ソワカのことば」	31人	30,000円
上有住	住民健康講座「元気にからだを動かそう！」	43人	30,000円

2-8. シルバー人材センターの運営

シルバー人材センターが発足して6年目、受託事業の時期や内容の予測がつくようになり実際に活動できる会員も定着してきました。前年度に引き続き、町道の草刈り作業を受託したことで公共事業の配分金が多くありました。

今後は、独居や高齢世帯、空き家となった実家を管理する遠方からの利用が増えると予想されることから、登録会員や実際に活動できる会員の増員をめざし、町内に周知していきます。

		30年度	31年度	R 2年度
登録会員	男	27人	27人	29人
	女	20人	17人	17人
	計	47人	44人	46人
公共事業の受託	延活動会員数	321人	356人	418人
	配分金	4,552,680円	5,027,228円	4,628,948円
民間事業の受託	延活動会員数	733人	683人	675人
	配分金	3,039,059円	2,966,550円	2,855,785円

2-9. ボランティア活動連絡会の支援

現在の加入団体は24団体、会員数175人。ボランティア講座やよりあいカフェ、すみたおたすけ隊などで活動を行いました。

会員やボランティアをする中高生にボランティア活動保険を掛け安心して活動できるようにしました。

<ボランティア研修> 12/15(火) 保健福祉センター2階 研修室
講演:「ささえあい住民講座」～あなたは「助けて！」が言えますか～
講師:社協職員 ボラ連会員参加数 12人

<歳末たすけあい芸能祭>
新型コロナウイルス感染予防のため中止

2-10. 日本赤十字社住田町分区事務局

日本赤十字会員の募集(会費募集)・・・年1回(10月) 一般 1,689件 845,600円
法人 2件 12,000円
令和2年7月豪雨災害義援金・・・・・・・・町内事業所 7件 54,291円

2-11. 福祉だよりの発行、ホームページの更新

福祉だより年4回発行・・・5月・8月・12月・2月
ホームページ更新 18回
Facebook 更新 16回

3 在宅福祉活動の推進

介護保険サービス事業の全体の実績額と延べ利用回数



年度	実績額	前年度比	延利用回数	前年度比
H27	306,919,224	△39,171,778	46,467	1,878
H28	319,256,620	12,337,396	46,298	△ 169
H29	309,086,593	△ 10,170,027	44,600	△ 1,698
H30	317,686,509	8,599,916	43,881	△ 719
R1	309,186,811	△8,499,698	41,704	△2,177
R2	296,041,338	△ 13,145,473	38,293	△3,411

令和3年3月31日現在の利用者

事業所	利用者	昨年度(R1)
ケアマネ	197人	186人
訪問介護	107人	166人
訪問入浴	16人	13人
アンルス	71人	68人
とだて	50人	60人
かっこう	9人	9人

3-1 居宅介護支援事業(ケアマネ事業)

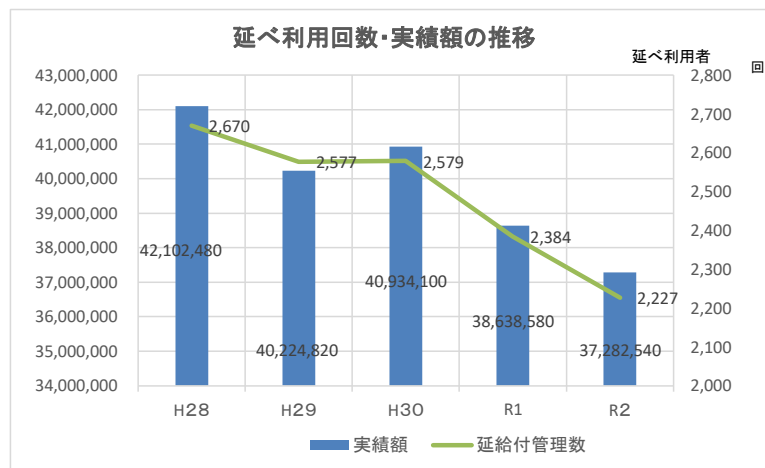
ケアマネ事業では、本人及び家族の希望や心身の状況を考慮し、関係機関と連携しながらプランを作成しています。利用者本人の支援だけでなく、複雑な家庭環境のケースが増えており、総合的な支援が求められました。今年度は新型コロナ感染対策として、時差出勤やリモートワーク用のノートパソコンを購入しました。どんな場合でも業務を継続し、ご利用者のサービスに支障がないような体制を整えました。今後も利用者、家族が安心して自宅で過ごせるように支援を行います。

※他の事業と兼務する職員あり

【職員体制】	職員数	女	男	正職員	嘱託	準職員	パート	主任ケアマネ
	7	6	1	6	1	0	0	3

【利用者数】	要介護	要支援・総合	合計
月平均利用者数	168人	18人	186人

年度	実績額	延給付管理数
H28	42,102,480	2,670
H29	40,224,820	2,577
H30	40,934,100	2,579
R1	38,638,580	2,384
R2	37,282,540	2,227



【利用者実績(要介護・介護予防)】

	R2年度	令和1年度	増減	令和2年度	
				利用中止者	新規利用者
介護合計	2013	2170	-157	33	29
支援・総合合計	214	214	0	1	8
利用者実績合計	2227	2384	-157	34	37

【事故報告書】

- 令和3年1月・車を動かしたときに、庭のブロックとぶつかる
- 令和3年1月・走行中飛び出してきた猫とぶつかり、バンパー破損
- 令和3年2月・停車中の車にタクシーが接触する

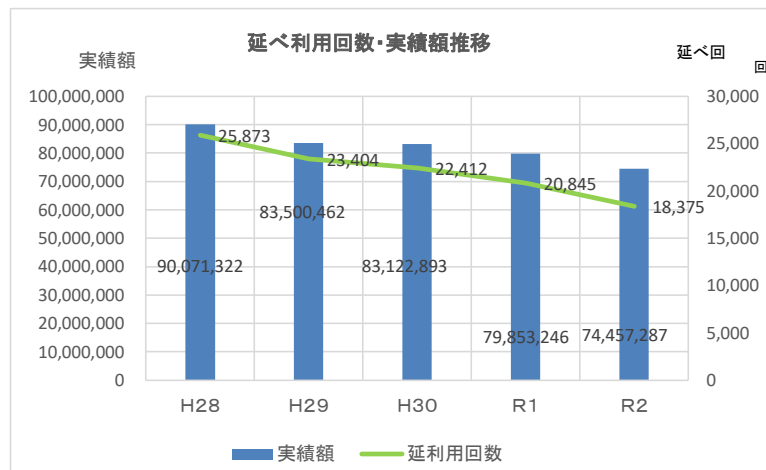
3-2 訪問介護事業(ヘルパー事業)

訪問介護事業所では、できる限り住み慣れた地域で安心して生活できるように介護サービスを行っています。令和2年度はコロナ禍で感染予防研修と対策の徹底を行いました。訪問時には防護服着用し、職員出入り口や休憩場所も分けました。今後も感染予防を徹底し、各関係機関と連携を図りながら介護サービスを提供していきます。

職員数	女	男	正職員	嘱託	準職員	パート
20	20	0	4	0	11	5

利用者数	要介護	要支援・総合	合計
1日平均訪問回数	46回	4.3回	50.3回
月平均訪問回数	1,531回	131.4回	1662.4回
月平均利用者数	84人	20人	104人

年度	実績額	延利用回数
H28	90,071,322	25,873
H29	83,500,462	23,404
H30	83,122,893	22,412
R1	79,853,246	20,845
R2	74,457,287	18,375



【利用者実績(要介護・介護予防)】

	令和2年度	令和1年度	増減	令和2年度	
				新規利用者	利用中止者
1日当りの訪問回数	60	61	-1		
介護合計	1,009	962	47		
支援・総合合計	243	247	-4		
利用者実績合計	1,252	1,209	43	22人	43人

【事故報告書】

- 令和2年3月・保健福祉センター前に駐車しようとしたが、電柱に衝突し車を破損する。

3-3 訪問入浴事業

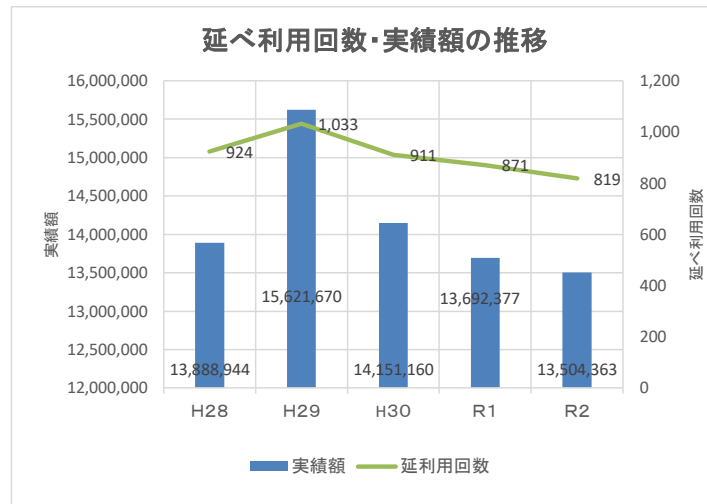
訪問入浴は、在宅で過ごされている介護度の高い方が利用されています。ご利用者が安心・安全に入浴でき、家族のご負担が軽減できるようサービスを行っています。しかし、利用人数は減少傾向にあり、令和2年度は週3日の稼働でした。今後も利用状況に合わせた訪問入浴の在り方を検討していく必要があります。

※他の事業と兼務する職員あり

【職員体制】	職員数	女	男	正職員	嘱託	準職員	パート	介護員	看護師
	4	2	2	2	1	0	1	2	2

【利用者数】	要介護	要支援・総合	合計
月平均延べ利用者数	68.8人	0	68.2人
1日平均利用者数	5.6人	0	5.6人

年度	実績額	延利用回数
H28	13,888,944	924
H29	15,621,670	1,033
H30	14,151,160	911
R1	13,692,377	871
R2	13,504,363	819



【利用者実績(要介護・介護予防)】

	令和2年度	令和1年度	増減	令和2年度	
				新規利用者	利用中止者
1日当りの訪問回数	5.6	4.5	1		
介護合計	819	878	-59	12人	5人
支援・総合合計	0	0	0	0人	0人
利用者実績合計	819	878	-59	12人	5人

【事故報告書】

なし

3-4 グループホーム かつこう

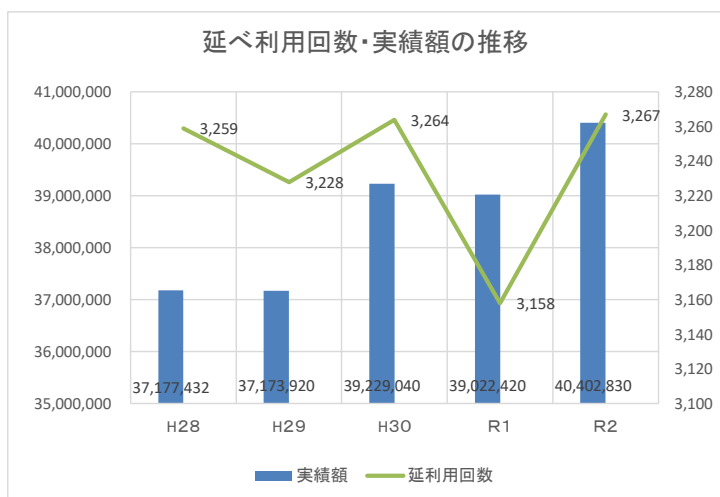
今年度 施設での看取りを希望されるご家族と医療機関と連携しながら、訪問看護すみちゃんの協力の下 かつこう職員一丸となつてできる限りの対応をして終末期に寄り添いました。コロナ禍のため面会制限したり、地域の交流はの減少しました。また、昨年度は水光熱利用料金改定にともない、収入は増えています。これからも家庭的な雰囲気を大事にし、お互いを認め合いながら笑いのある生活を送れるよう支援いたします。

※他の事業と兼務する職員あり

職員数	女	男	正職員	嘱託	準職員	パート
11	9	2	5	0	3	5

利用者数	要介護1	4人	要介護4	1人
	要介護2	2人	要介護5	0人
	要介護3	2人	合計	9名

年度	実績額	延利用回数
H28	37,177,432	3,259
H29	37,173,920	3,228
H30	39,229,040	3,264
R1	39,022,420	3,158
R2	40,402,830	3,267



【利用者実績(要介護・介護予防)】

	令和2年度	令和1年度	増減	令和2年度	
				新規利用者	利用中止者
要介護1	48	29	19	1人	1人
要介護2	24	30	-6		
要介護3	24	30	-6		
要介護4	12	13	1		
要介護5	0	5	-5		
利用者実績合計	108	107	-1		

【事故報告書】

○令和2年10月・部屋で転倒し、打撲するが痛みなし

○令和3年3月・肋骨骨折あり、入院する。かつこうでは転倒なくすごしており、原因は不明。

3-5 とだて通所介護事業所(デイサービス事業)

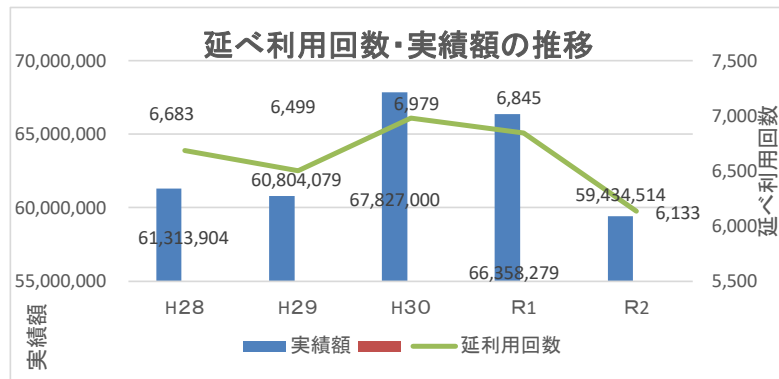
今年度中重度者(要介護3~5)利用者比率は43.5%でした。介護度の高い利用者が多く、施設入所や亡くなる方が続いたことが利用人数減少の要因と言えます。新規のご利用もありますが、利用人数の回復にはつながっていません。次年度に向けてはリハビリ専門職員が配置されたので、①機能訓練・運動機能向上訓練等の充実、②事業対象者へ対象のプログラム検討をし、健康寿命を伸ばす取り組みを考えています

※他の事業と兼務する職員あり

職員数	男	女	正職員	嘱託	準職員	パート	相談員	看護師	介護員	調理師
11	2	9	4	0	4	3	3	3	6	1

【利用者数】	要介護	要支援・総合	合計
1日平均利用者数	16.7人	2.8人	19.5人
月平均延べ利用者数	446人	65人	511人
利用割合	89%	11%	100%

年度	実績額	延利用回数
H28	61,313,904	6,683
H29	60,804,079	6,499
H30	67,827,000	6,979
R1	66,358,279	6,845
R2	59,434,514	6,133



【利用者実績(要介護・介護予防)】

	令和2年度	令和1年度	増減	令和2年度	
				新規利用者	利用中止者
1日当りの訪問回数	20人	23人	-3		
介護合計	535	595	-60	8人	14人
支援・総合合計	785	896	-111	3人	1人
利用者実績合計	6,133	6,845	-174	11人	15人

【事故報告書】

○令和3年2月・車の乗降中に歩いていて足をひねる。骨折しその後体調崩し入院となる。

3-6 アンルス通所介護事業所(デイサービス事業)

アンルス利用者のうち、中重度者(要介護3~5)の占める割合は30.3%と前年度の20.9%を大きく上回りました。加齢や既往症など利用者個々が持つ健康などの不安を軽減し、安心してサービスを利用できるよう職員一同で心掛けました。

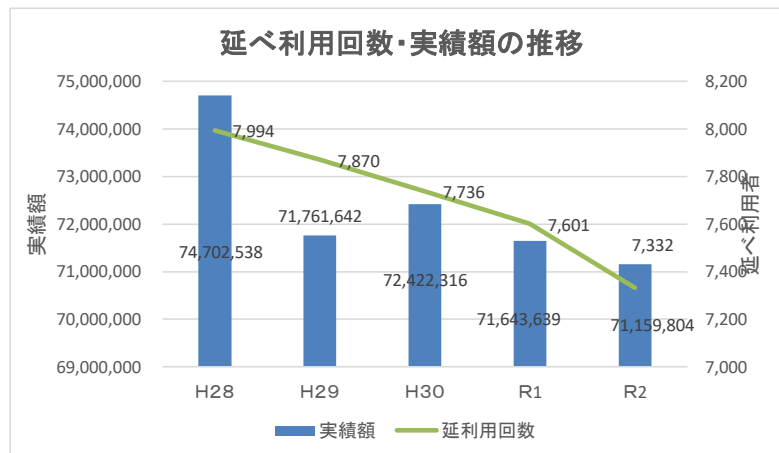
今後も生活等での課題を本人や家族、関係機関と連携を深めながら、柔軟かつ的確に対応できるサービスの構築に努めてまいります。

※他の事業と兼務する職員あり

【職員体制】	男	女	職員数	正職員	嘱託	準職員	パート	相談員	看護師	介護員	理学療法士	調理師
	4	11	15	7	0	3	5	3	4	8	1	1

【利用者数】	要介護	要支援・総合	合計
1日平均利用者数	22.1人	2.3人	24.4人
月平均延べ利用者数	553.7人	57.2人	310.9人
利用割合	90.6%	9.4%	100%

年度	実績額	延利用回数
H28	74,702,538	7,994
H29	71,761,642	7,870
H30	72,422,316	7,736
R1	71,643,639	7,601
R2	71,159,804	7,332



【利用者実績(要介護・介護予防)】

	令和2年度	令和1年度	増減	令和2年度	
				新規利用者	利用中止者
1日当りの訪問回数	24.4	25.7	-1		
介護合計	6,645	6,980	-335	2人	12人
支援・総合合計	687	764	-77	6人	0人
利用者実績合計	7,332	7,744	-412	8人	12人

【事故報告書】

- 令和2年5月・トイレ洗面所で転倒
- 令和2年6月・廊下歩行練習中転倒し、救急搬送。頭部打撲の為 遠野病院に3日入院する。
- 令和2年12月・送迎途中、道路上の消火栓にぶつかり破損する。

3-7 障がい者福祉サービス支援

障がい者ご利用者の中には気仙管内施設を利用している方がいます。気仙地区で感染者発生時は作業所やデイサービスが休業しました。自宅で過ごすことが増えたためヘルパー訪問を増やして対応しています。ご利用者の方に感染予防対策をアドバイスしたり、訪問時は防護服で対応しました。今後も新型コロナウイルス感染症の対策をし、各関係機関と連携しながらサービスを行う必要があります。

【利用者実績(要介護・介護予防)】

	令和2年度	令和1年度	増減	令和2年度	
				新規利用者	利用中止者
1日当りの訪問回数	4	4	0		
介護合計	94	111	-7		
支援・総合合計	0	0	0		
利用者実績合計	94	111	-17	2人	0人

(訪問入浴サービス)

今年度は利用がありませんでした。

3-8 高齢者福祉センター(アールス居住)

冬期間、自宅での一人暮らしが困難な方が利用しています。夫婦部屋も併せ、最大8部屋10名の方の利用が可能です。継続利用している方もおりますが、介護度が高くなり利用が出来なくなった方もおります。今年度は新規に3人の方が利用しました。これまでは道路事情・交通の便が悪い方がほとんどでした。今年は住宅事業がわるくて入居するなど、必要性を協議したうえで、柔軟な活用がなされました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
営業日	15	0	0	0	0	0	0	5	31	31	28	31	141	365
入居者数	2	0	0	0	0	0	0	3	6	6	6	3	26	46